

20歳未満の方！日本脳炎予防接種を受けましょう！

文=山田 朋枝(保健師)

7月に入ると海水浴やキャンプ、花火大会など屋外で過ごす機会が多くなります。同時に『蚊』の活動も活発になります。蚊に刺されると赤く腫れてかゆみが出るだけではなく、蚊に刺されてうつる病気があることをご存知ですか？

蚊に刺されてうつる感染症には、日本脳炎、デング熱、マラリア、ジカウイルス感染症などがあります。これらの感染症は、原因となるウイルスに感染した蚊に刺されることで発症します。デング熱やマラリアは熱帯・亜熱帯地域で広く発生する感染症で、年間1〜2億人の患者数が報告されています。「日本では関係ない感染症」と思いがちですが、昨年8月に海外渡航歴がなくとも東京都内の公園周辺で蚊に刺された人からデング熱患者が発生し、約100人の患者数の報告がありました。これらの蚊を介してうつる感染症のうち、ワクチンで予防できるのは日本脳炎だけです。

予防が大切！日本脳炎

日本脳炎は他の感染症とは違い、人から人へ感染することはありません。日本脳炎ウイルスがブタなどの体内で増え、そのブタの血を吸った蚊(コガタアカイエカ)に刺されたことでうつります。日本ではワクチンの普及により流行が阻止され、1992年以降は年間10人未満と減少しています。しかし、2014年2人(兵庫、熊本)、2015年2人(千葉、奈良)と、毎年、患者の報告が続いています。

日本脳炎とはどのような病気なのでしょうか。日本脳炎ウイルスに感染してもほとんどの人は症状がなく、気がつきません。しかし、100人〜1000人に1人の割合で、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどの症状を示す「急性脳炎」になり、そのうち約20〜40%の人が亡くなっています。命をとりとめても、多くの人が神経の後遺症(脳の障害)を残す病気で、日本脳炎に治療法はなく、ワクチンによる予防が最も効果的なのです。

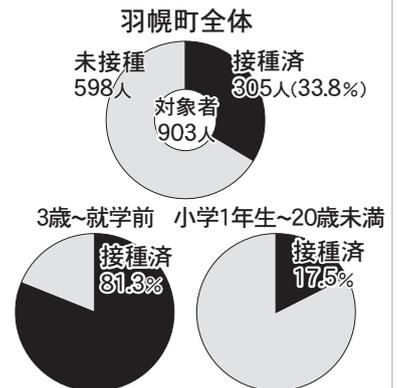
北海道も日本脳炎 予防接種が定期化に！

北海道でも平成28年4月から日本脳炎予防接種が定期接種となりました。今までは、北海道に日本脳炎の原因となる蚊(コガタアカイエカ)が生息していないという理由で、定期接種を行っていませんでした。しかし、温暖化の影響により、蚊(コガタアカイエカ)の生息の可能性があること、また、関東や西日本および海外に行き来する機会が増えていることから定期接種となりました。

20歳未満の人は日本脳炎 予防接種の対象者です！

右下図のとおり平成28年度の接種状況を見ると、対象者全体の接種率も低いですが、特に小学1年生から20歳未満の接種率が低く、年齢が高いほど接種していないことが分かります。「予防接種って、小さい子だけが対象でしょ?」と思っていませんか?日本脳炎予防接種は生後6カ月(標準的な接種開始年齢は3歳)〜20歳未満の人が対象者となっています。

28年度日本脳炎予防接種の状況



日本脳炎予防接種の予約はすこやか健康センターへ！

日本脳炎の予防接種は他の予防接種と比べ、対象者の幅も広く接種する時期が年齢によって違います。詳しくは、町HPや3月末に配布しています「保健行事予定表」をご覧ください。接種を希望される方は、希望日の8日前までにすこやか健康センターへ予約してください。

▶接種できる医療機関

- 中学生まで 道立羽幌病院小児科 毎週水曜日/14:00~
- 高校生以上 道立羽幌病院内科 月-金曜日/8:00~11:00
- 加藤病院 月・火・木曜日/13:30~15:00
- 月-土曜日/ 8:30~11:30
- 月-金曜日/13:30~15:00

↓ 予防接種の予約・お問い合わせ
すこやか健康センター内
健康支援課保健係 ☎62・6020